

『 インドネシアのことをもっと知ろう 』

学校名・名前 : 芦屋市立朝日ヶ丘小学校 ・ 濱田 理

実践教科 : 総合的な学習の時間、音楽、家庭科

指導時数 : 11時間

対象学年 : 小学6年生 対象人数 : 74人(1組37名:2組37名)

1. カリキュラム

(1) 実践の目的

インドネシアの文化に触れ、他国の文化を受け入れる
インドネシアと日本を比べることで自分たちの生活・思いを振り返る

(2) 授業の構成

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材、収集写真・モノ |
|----------------------------|---|---|
| 1時限目 インドネシアってどんな国 | ・子ども達のイメージするインドネシアを出させる ・写真を使って、インドネシアの紹介 ・お土産を使ってハラルマークを探そう。 ・子ども達の興味のある物は？ | インドネシアの地図 写真(ジャカルタの町並みなど) お土産(スナック菓子・ボールペンなど) |
| 2～6時限目 インドネシアと日本を比較しよう | ・自分の興味のあることを日本と比較しながら調べ、新聞にまとめていく。 | インターネット インドネシアに関する本など |
| 7～11時限目 インドネシアの文化を体験しよう | ・子ども達の興味ある物の体験 (楽器演奏:アングルン 食べ物:ナシゴレン・ミーバツ) | クラスの親(ゲストティーチャー) 食材(レシピ)・楽器 |
| 12時限目 日本とインドネシアをつなぐもの | ・青年海外協力隊について ・わたしたちが出来ることを考える | ゲストティーチャー ワークシート 写真(ODA) |

2. 授業の構成

授業の前に

本校の6年生に、お父さんの会社の関係で日本に来ているインドネシアの女の子がいる。彼女が5年生のときに編入してきたのだが、たった1年半ほどで日本語にほとんど不自由しない状況である。子どもたちも、彼女がいることが普通に感じており、こちらも国語の読解のテスト以外は、まったく言葉に関して気になっていない。1学期は、読書などが好きで、よく本を読んでいたが、2学期の後半になると、友だちとどんどんおしゃべりを楽しんで活発に過ごしている。そんなクラスの仲間の国がどんな国なのか、どんな共通点や違いがあるのか。興味や体験を通して深めてほしいと思い、授業を進めることにした。

1時限目 「インドネシアってどんな国」

9月に入り、インドネシアに行ってきた報告を行った。出来るだけ、日本の様子と比較できるように写真を使って行った。その内容は以下の通り

・インドネシアの子どもたちの様子(中学校)

子どもたちの趣味・授業の様子・休み時間のおやつ(ジャムー)・ソーラン節の披露など



・ボルブドゥール遺跡(世界遺産)



・町の様子

ポスト・ゴミ箱・市場・ガソリンの露店販売・携帯電話・駄菓子屋・コンビニ・バイク



・食べ物

屋台のミーバソ・果物など



～ 所感 ～

子どもたちの様子については、休み時間に校門前におやつを買いに行けることに反応が集中した。また、趣味がゲームなど日本の子どもたちと似ていることにも反応を示した。

ボルブドゥール遺跡については、子どもたちが修学旅行や社会見学で、国内の世界遺産を見てきたことから紹介した。

町の様子については、クイズ形式で出題した。ポストやコンビニなど日本とよく似たものから、ガソリン

の露店販売やバイク社会、交通事情など日本とのちがいを説明した。

食べ物については、私自身が一番感動した、屋台のミーバソについて紹介した。イスラム教徒は豚肉が食べられないことから、だしは牛肉でとっていることなどを話すと、食べてみたいと言う声が上がった。(後日、調理実習することになった。)

お土産として、スナック菓子を子どもたちに渡し、イスラム教徒の人でも安心して食べられる食品のマーク「ハラルマーク」について紹介し、子どもたちは、そのマークを探しながらスナック菓子を食べていた。後日、教室の後ろに、インドネシアで購入した食品を展示し、ハラルマークを探すコーナーをつくった。



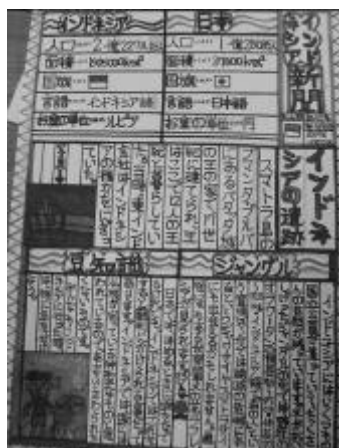
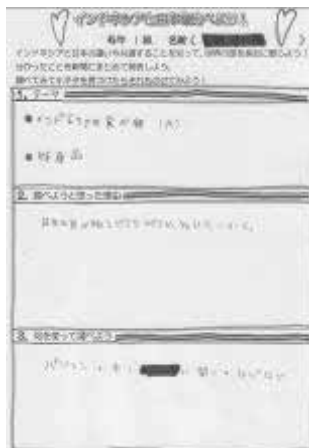
2～6時限目 「インドネシアと日本を比較しよう」

自分たちで調べたいテーマをワークシートに書かせ、インターネットや、本、インドネシアの子どもに聞くなどして、自分たちで調べ学習をすることにした。調べたことは、新聞に日本と比較しながらまとめることにし、比較できないことは、インドネシアの豆知識として載せてみるように指示し、活動を行った。

出来上がった新聞は教室に掲示し、お互いの新聞を見ながら、調べたことを共有することにした。

【新聞を作ってみての子どもたちの感想】

- ・果物の名前など同じではないけれども、似た名前や日本では聞かない名前もありました。でも、食材は日本とほとんど同じだったので驚きました。料理は、見た目はスパイシーってかんじて日本と違うかなと思ったけど、作られているものが同じものだったので、味覚は同じなのかなと感じました。
- ・インドネシアと日本の絶滅危機動物を比べて、世界にはこんなに絶滅危機の動物がいるとは知りませんでした。これからはもっと動物を大切にしないといけないことを忘れず、動物を保護していきたいです。
- ・日本とインドネシアを比べてみると、言葉の違いが一番印象的だったけど、逆に共通点もありました。それは、国旗の色です。両国とも、赤と白を使っています。
- ・インドネシアの食べ物はけっこう日本と似ているなーと思いました。でも、日本は手で食べ物を食べることは行儀が悪いことになるので、やっぱり国によって習慣とか違うんだなと思いました。
- ・インドネシアの言葉は、日本では短い発音が長くなっていたりして面白かった。ベチャの車夫は若死にするのになぜベチャが多いのか気になった。
- ・ぼくは、この新聞を書いて、インドネシアでも日本の漫画が読まれていて、ものすごく驚いた。その中には僕の知らない漫画もあって、インドネシアの人と日本の人の好みは少し違うのだと思った。



授業外で「ラマダンの断食」

9月に入って、運動会の練習が始まった時期と平行して、インドネシアの彼女が、ラマダンの断食に入った。朝から、夕方の6時まで水も食事も口にしないというのである。ただでさえ、残暑が厳しいこの時期に、しかも、毎日のように運動会の練習が続くこの時期に水も口にしないということは体調面からも大丈夫なのだろうか。と心配し、お母さんとも相談した。すると、「彼女がやるといっているのだから、できるところまでさせてあげたい。」とのことだった。給食も食べられないので、その時間は図書室で一人読書をし、運動会の練習中も水分を取らない。こんな状況をクラスの子もたちも見ており、改めて、生活習慣、宗教の違いを実感した。それにしても、意志が強いと思った。

7～11時限目 「インドネシアの文化を体験しよう」

～ 楽器編 ～

今年の卒業生が、卒業の記念にアングルンという、竹でできたインドネシアの楽器を学校に寄贈してくれた。イメージとしては、ハンドベルのインドネシア版といった感じである。このアングルンを使って、音楽会では、職員演奏で、キロロの「未来へ」を演奏した。

音楽の先生に協力していただき、6年生の子どもたちも、「世界の音楽めぐり」という音楽の授業の中で、グループに分かれてクリスマスソングをアングルンを使って練習し、発表会を行った。



【アングルンを演奏しての子どもたちの感想】

- ・アングルンって竹を複雑な形に組み合わせた楽器で、横に振るとまるで森の中にいるような感じを響かせることができ、優しい音が出ました。
- ・自然の音がしてすごく面白かった。
- ・竹でできているということもあって、見た目がきれいで音もきれいでした。2つ3つ音が合わさると、とてもきれいでした。
- ・アングルンを振動させると、カラカラと美しい音色がなり、とても面白かった。さらに、この音を他の音と重ね合わせるとさらに美しい音色がなり感動した。その音色を聞くと、自然とその音色にあった情景が浮かんでくるようだった。
- ・竹の柔らかな音が、聞いている人の心を和ませてくれると思いました。
- ・こんないい音がでるんだな～と不思議に感じました。

～ 料理編 ～

インドネシアの女の子のお母さんを講師として迎え、インドネシアの料理作りにチャレンジした。代表的な料理、ナシゴレンと、私がインドネシアではまったミーバソという、牛肉でだしをとったラーメンを作ることになった。まず、お母さんから調理方法や調味料の紹介をしていただき、実際に調理スタート。子どもたちは、インドネシアの料理に、にんにくがたっぷり使われることにびっくりしながらも、香ばしい良いにおいの中、集中して調理に取り組んだ。途中、インドネシアで購入してきた、サンバルソース(辛いソース)やケチャップマニス(甘いソース)をなめながら、インドネシアの雰囲気を感じていた。



インドネシアの人は、ナシゴレンやミーバツにサンバルソースやケチャップマニスをトッピングして食べることを聞いた子どもたちは、思い思いにソースをかけ、「からい！」「甘からくって美味しい」といいながら本場の味を楽しんだ。中には、インドネシア語で「おいしい」という意味の言葉「エナ！」と言っている子どもたちもいた。



【料理を作った子どもたちの感想】

- ・ミーバツはにんにくが多かったです。でも、インドネシアならではのスパイスのきいた料理で美味しかったです。インドネシアの料理がこんな味だということが分かり、Mさんのことも前よりよく分かりました。
- ・チャーハンと比べるとナシゴレンは独特の味がした。でも、どちらも美味しいと思った。ミーバツはラーメンとは違ってにんにくの味がすごした。
- ・ナシゴレンはからくて、ミーバツは甘かった。これを食べて、インドネシアの料理に興味をもった。
- ・ナシゴレンは意外と甘く、日本のチャーハンと全然違いました。ミーバツは、スープが緑で、味がしっかりしていました。
- ・ナシゴレンは味が調整できて、辛いものや甘いものまでできるので感動しました。ミーバツのだしがラーメンと全然違っていました。
- ・インドネシア料理を作ってよかったと思います。ナシゴレンは、インドネシアに行って本場のものを食べてみたいです。
- ・とても簡単にインドネシアの代表的な食べ物ができたのでびっくりしました。すぐ作れてしまうのに味はすごく美味しかったです。おうちでも作りたいです。

3. 成果と課題

クラスの中に、インドネシアの子どもがおり、授業を通してインドネシアのことに興味を持ったり、身近に感じてくれたとは思ふ。そういう意味では、授業をしてみてよかったと思う。しかし、自分が今回インドネシアで見てきたことや感じたことは半分も伝え切れてないような気がする。ストリートチルドレンとの出会い、ジャワ島中部地震で被害にあった人たちの気持ち。家族の温かさ。ぬくもり。こういったことをもっと授業の中に取り入れる工夫をしていかないといけないと思った。インドネシアと日本を比較する場面で、もっとこちらからのアプローチの仕方があったのではないかと思う。

12月末現在、まだ、12時限目の授業を行っていない状況である。3学期に、もう一度、インドネシアのことを知った上で、さらにどんなことをしてみたいか。どんなことができるのか。つなげていけるように考えていきたい。まずは、興味のあることから取り組み、次に、その内面に迫っていくことで、国際理解が深まっていくのではないかと感じた。